№35

地域の「やってみたい」を応援する情報誌

みんなで

地域で学びを支える

ひと言で「学び」といってもさまざまな形や思いがあります。
今回は豊かな地域とはどのようなものか学びを通じて考えてみました。

四街道市
みんなで
地域づくり
センター

学びたいを支える

年齢や障がい、国籍などそれぞれが置かれた事情に関わらず、すべての人が自分に合った学びを保障されることは重要です。多様な学びの場がすぐそばにあることは、自分たちや地域にどのような効果があるのでしょうか。市内で学びを支える皆さんを中心に話を聞きました。

より学びやすい教科書を

昭和56年に設立された「四街道拡大写本の会」は、文部科学省に登録し拡大教科書を作成しています。全国の小学生から高校生までの視覚障がいなどのある子どもに、より学びやすい教科書をと約25人のメンバーが年間約60冊の教科書を拡大教科書に編集・製本しています。

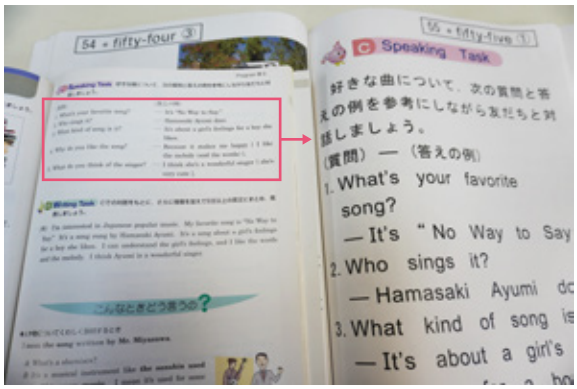
子どもたちは一人一人見え方が違います。視力だけではなく、例えば視野が限定されたり、見づらい色があったりします。四街道拡大写本の会では学校より製作依頼書カードを提出してもらい、文字の大きさ・行間・字間・色などに配慮したプライベートサービスの拡大教科書を製作しています。教科書を発行している出版社の拡大教科書もありますが、会が作るものを使うことで、子どもたちは専用の機器やルーペ等の道具に頼ることなく学ぶことができます。理解しやすい拡大教科書を作るため、教科ごとにメンバーをチーム分けし、話し合いながら編集しています。

メンバーの皆さんをはじめ代表の越島陸雄（こしじまむつお）さんが口にするのは「この子にはこれが最適な教材だろうか」ということ。心を砕いて作業しているその理由は「学びたい」という気持ちを少しでも支えたいという強い思い。他市の教育委員会にも積極的に提案し、識字障がいのある子どもへ総ルビの拡大教科書を作成しています。

「どうしたらより良いものが作れるのか。メンバーも常に学びながら試行錯誤しています」

これまで依頼のあった拡大写本は、コロナ禍でも全国の拡大写本の会と協力しながらすべて受け付けてきましたが、各地の拡大写本の会の解散や団体内の高齢化もあり、断らざるを得ない状況になっています。現在は新学期に向けて新しい教科書を作り、子どもたちへ学びを届けるために、メンバー一丸となって作業を進めています。

四街道市立図書館では、四街道拡大写本の会が作成した一般書の拡大本を所蔵しています。一度手に取ってみてはいかがでしょうか。



中学校英語の拡大教科書（右）
1冊の教科書が10冊以上に分かれることもある

連絡先
四街道拡大写本の会
043-421-6300（四街道市ボランティアセンター）

地域のなかに広がる学び

からくり倶楽部主催の親子工作教室

糸かけの体験で美しい「さんすう」の世界へ

自由な発想へ

元高校教師の滝澤容子さんは、市内で子どもたちに粘土造形や糸かけなど手を使って取り組むユニークな算数教室を開いています。

子どもたちが心と身体で体験し感じたことは、深い理解につながるという考えのもと「どうかな？」「やってみよう」と声を掛け、自分の内面と対話しながら学べる環境を作っています。自らの心から湧き上がるものを感じ、それを認め合う場があることで、子どもたちはワクワクしながら教室に通うことができています。

滝澤さんは、公教育以外の学びの機会をつくり、子どもたちがそれぞれの答えにたどり着くことを支えたい、そして地域における学びの多様性に貢献したいと考えています。

地域と学校、家庭の橋渡し

「四街道・科学未来からくり倶楽部」の野口英一（ひでいち）さんは、長年培った技術者としての経歴を生かし、松井昶（あきら）さん、梅澤秀男さんたちと科学実験・工作教室やプログラミングなどを通して地域と学校をつなぐ活動をしています。

野口さんは、30年ほど前に「みそら会」を立ち上げ、地区の住民同士の意識を高めるための活動に尽くしてきました。東日本大震災直後、地元の小学校からみそら会に「地域と学校の連携を強化し子どもたちを見守ってほしい」と相談があり、クラブ活動の支援を開始しました。その後、平成25年のコラボ四街道への応募をきっかけに現在の名称に変更、市民大学で知り合った梅澤さんたちが加わり、市内各地で活動を拡大しました。

野口さんたちは円滑なコミュニケーションをとることを大切に子どもたちと接しています。勉強だけではなく、ものづくりをはじめとした科学技術に興味や関心をかき立て、その面白みを感じてもらえるように心がけているそうです。

「学びとは自分の中から湧き出る好奇心を満たすこと」と語る野口さん。子どもたちに最新のプログラミングを分かりやすく教えるため自身も学び続けています。

学びの輪を広げよう

今回は多様な形で学びを支えている皆さんを取材しました。地域の大人が自分の興味のあること、得意なことを生かして子どもたちの学びを支えることは、自身の学びを深めることにもつながり、より生き生きした毎日を送ることができるのだと感じました。

先生でも親でもない地域の大人が、学びの機会を提供することで、子どもたちは一歩を踏み出しやすくなります。同時に多様な価値観や人との関わり方を学ぶ機会にもなります。

さらに地域の人がロールモデルとなることで、これから自分にも何かできるのではないかと考えている皆さんの参考になることでしょう。

自分も学びながら誰かの学びを助ける人が増えて、その輪が広がっていくといいですね。

連絡先

四街道・科学未来からくり倶楽部
電話：043-432-2581（野口）

その他お問い合わせは
四街道市みんなで地域づくりセンターまで

ピックアップ

第10回子ども支援交流会・円卓会議

12月8日、子ども支援交流会・円卓会議を行いました。子どもに関わる地域課題についての交流会は、これまで子どもの貧困、コロナ禍での様子などをテーマに話し合ってきました。

10回目となる今年度のテーマは「不登校支援に関する意見交換」。当事者や関心のある30名が集まりました。

はじめに、市教育委員会指導課教育サポート室の千葉芳子さんに「不登校支援の現状」を、次に市内在住で全国の不登校やひきこもりに悩む保護者から相談を受けている中川美奈さんに「なぜ親の支援が必要か」についての話を聞きました。

その後、多様な学びのあり方や、当事者の親同士が情報交換する場の必要性について意見が交わされました。不登校の子どもの数が増加傾向にあるのは、四街道市も同じです。「現状を理解し、学校、家庭、地域がみんなで一緒に支援していくことが重要」という千葉さんの話には、参加者は心中深くうなずいたことでしょう。

今後も地域として何ができるのか、関心ある皆さんと考える機会をもちたいと思います。

ピックアップ

コラボ塾　プレ・プレゼン

「みんなで地域づくり事業提案制度（コラボ四街道）」の補助金を活用して、地域づくりや地域課題の解決を図っていくための学びの場「令和4年度コラボ塾」が、昨年9月8日にスタートしました。1月26日には、コラボ塾最終5限目の「コラボ四街道本審査直前プレ・プレゼン」を開催しました。

令和5年度のコラボ四街道の本審査に挑戦するのは、「ちょこっとクラブ」「よつかいどう学生服リユース」「笑うベスマホ庵」の各団体。補助金を得ることで、新しい事業を展開し地域づくりに貢献したいと思いの丈を述べ、参加者からの意見やアドバイスを得ることができました。

2月13日の本審査での事業採択に向けた貴重な時間となりました。

おしらせ

第22回　福祉施設紹介・販売フェア「大きなテーブル」

「大きなテーブル」は、障がいのある人の社会参加、就労支援、自立支援の一環として、普段なかなか知ることができない福祉施設の取り組みや商品を紹介し、地域の方に知っていただくフェアです。次回は約20団体の出店を予定していますので、ぜひおでかけください。

日時　令和5年6月17日（土）　10：00ー14：00
場所　文化センター玄関前広場および展示ホール
内容　福祉施設の活動紹介・商品販売（市内および近隣地域の福祉施設などで作られている新鮮野菜、パンやクッキー、手作りの小物などが販売されます）
主催　大きなテーブル実行委員会
問い合わせ　みんなで地域づくりセンター内大きなテーブル実行委員会事務局

昨年の大きなテーブルの様子

みんなで35号

表紙の写真：
活動中も笑顔と熱意の絶えない四街道拡大写本の会の皆さん

編集・発行：四街道市みんなで地域づくりセンター（四街道市政策推進課分室）
所在地：四街道市大日396　四街道市文化センター1階
開館日時：火ー金および第1・3土　9：00ー17：00
（休館は日・月・祝日と第1・3以外の土および年末年始）
電話：043（304）7065　メール：info@minnade.org
発行日：令和5年3月1日　発行部数：5,000部

ホームページ　Facebook